

北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの「北海道の地名」(第3回)

当社は、白老町で開設を予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参加しています。

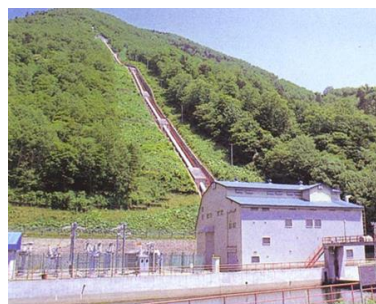
先住民族が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞ楽しみに。

第3回目は、十勝地方の水力発電所の然別発電所です。

然別(シカリベツ)

道東の鹿追町と上士幌町にまたがる十勝地方随一の大きな湖、然別(しかりべつ)湖。

湖畔には温泉が湧き出るほか、観光・レジャースポットとしても有名で、冬には氷上露天風呂などが観光客の人気を集めています。



然別第一発電所

この標高 810mにある然別湖を水源として、当社は二つの水力発電所を運用しています。

一つは然別第一発電所。1953(昭和28)年に完成した発電所で、出力は13,500kW。水車は、全国的にも珍しい二輪のペルトン水車※を使用しています。また水の落差が265.8mと大きく、当社の56ヶ所の水力発電所の中でも4番目に大きい落差を誇ります。

※ペルトン水車…落差の大きい発電所に適した水車で、ノズルから強い勢いで水を噴射させ、おわん形のバケツに吹きあてて回転させる水車

もう一つは然別第二発電所。こちらは然別第一発電所の2ヶ月後に運転を開始。出力は7,100kWです。

この二つの水力発電所は戦後の電力不足の時代に発電を開始し、その解消に大きく貢献しました。

さて、然別の由来は、然別湖から流れる然別川にあります。その川はアイヌ語でシ・カリ・ペツ(si-kari-pet 自分を・回す・川)と呼ばれたとされています。だいたいこの地方の大きな川は、南にまっすぐ流れるのですが、この川は然別湖に源を発した後、大きく半円形を描いて流れ、帯広市北西の十勝川に合流しています。この川の形状から、そのように呼ばれたと考えられています。

なお、後志地方の仁木町にある「然別」も同類の地名とされています。

(出典:山田秀三「北海道の地名」)